

シリーズ「多文化共生と小さな世界都市を語るシンポジウム」会議録

1回目 テーマ「リニアの時代と飯田下伊那の人口減少問題を考える」

H29.5.21 13:30~15:00

於：飯田市役所3階会議室

◎お話しくださったみなさん

株式会社 飯田ケーブルテレビ 代表取締役社長 原 勉 氏
株式会社 南信州新聞社 代表取締役社長 関谷 邦彦 氏
株式会社 信州不動産鑑定 社長 不動産鑑定士 寺沢 秀文 氏
飯田市副市長 佐藤 健 氏
飯田国際交流推進協会 会長 横田 盛廣 氏

◎コーディネーター

飯田国際交流推進協会 副会長 河原 進 氏



三石事務局長

飯田国際交流推進協会では飯田市を多文化共生のまち、小さな世界都市としたいという観点からシンポジウムを計画した。年間3回ほどシリーズ化して行いたい。

河原コーディネーター

日本では 2008 年をピークに首都圏への一極集中や少子高齢化を伴いながら人口減少に向かっている。地方にとっては死活問題だが、危機感はあまり感じられない。人口減少問題をどうとらえるか。

横田国際交流推進協会会長

- ・人口減少問題は厳しく伝えると人民の意識が下がってしまうが、現在ではとらえ方が甘いのでは。飯田市の人口 平成 29 年 1 月 1 日現在 100,827 人、下伊那郡と併せて 16 万人、30 年後には 72800 人、下伊那と併せて 119,800 人と予測される。
- ・国際交流推進協会では、2 年前「小さな世界都市」をテーマに提言書を提出した。その中核は「多文化共生社会」人口減を補うには、外国人に頼らざるを得ない。飯田市の外国人は約 2,000 人（人口の約 2%）人口減の半分は外国人に来てもらわないと補えなくなる。
- ・明治維新時日本の人口は 3,330 万人⇒ピーク時は 1 億 2,800 万人、人口が増える段階で成長してきた。人口減の経験がない。商業農業工業がどうなるのか。働ける人が全人口の中で約 65%となり、年配者や女性にも活躍してもらわなくてはならない。
- ・将来の人口減少に対して市民の認知度は非常に低い。我々は、市民の皆さんの認知度を上げ、人口減少に歯止めをかけ、「小さな世界都市」として、世界中から人が集まるようなまちにしていこうと目指している。人口問題は日本中での問題で競争となっているが、我々はリニア開通という特別のカードを持っており、有利に展開していけると期待している。

河原コーディネーター

飯田市の人口は、今にも 10 万人を切りそうな状況。飯田市は 20 年も前から人口減少が始まっており、ダメージはすでに受けている。人口減少による影響、リニアによる効果はどの程度期待できるのか、不動産鑑定士の立場から寺沢さんお願いします。

寺沢秀文さん

- ・不動産鑑定士は土地建物の価格を評価値付けするが、人口が減ると住宅地の需要がなくなり、ものが売れなくなるので店舗の必要性がなくなり商業地の値段も下がる、土地価格には人口の増減が大きく影響している。
- ・人口が減っている実態を他の地域と比較すると、〈寺沢さん提供資料参照〉長野県内でこの 10 年間で人口が増えているのは 10 市町村のみ。市では松本市のみ。
- ・飯田市は 10 年間で 6,400 人も減少。人口減少率を見ると上位 10 までの中の 6 が下伊那の町村。戦後一番人口が多かった 65 年前からの比較は、飯田市は 12,000 人の減少(19 市中 2 番目)。下伊那郡では、約 4 万人も減少し 65 年前に比べて 4 割の人口になってしまっている。非常に厳しい人口減少が続いているということをお我々はまず認識しないとイケない。
- ・リニアが来ればいろんな面でバラ色だという考えもあるが、逆にストロー現象で一極集中がさらに進み、人口が減る可能性もある。メリット、デメリットがあるが、カンフル剤として生かしてい

けるような英知を絞っていかないと、この人口減少は進むのではないかと考える。

河原コーディネーター

丘の上を考えてみるとドーナツ化現象の典型。そこで橋南地区に住まれ丘の上の移り変わりを目の当たりにしてきた原さん、目に見える深刻な現象とはどのようなことがあるでしょうか。

原 勉さん

- 丘の上の人口は約半分になっているが、中心市街地のにぎわいというのは周辺の地域から人が集まること。商店や銀行、市役所などがコンパクトにまとまっている街という位置づけは、城下町の時代から。大型店、高校、市立病院すべて郊外に行ってしまうが、移転当時は何の反対もなかった。丘の上として街を大きくすることと逆行していることに誰も気が付いていなかったのだろう。
- リニアは人を運んでくるので、多様な人たち、生活が違う人たちがもし飯田に泊まるとか住んでみようというときに、受入側となる我々の感覚が必要となる。
- 昭和 22 年の飯田大火で多くのものを失い、この地を離れた方も大勢いる。しかし残った人たちが再建のため立ち上がった、その象徴が大火後にできたりんご並木である。新たに挑戦する人たちがこの町をつくってきたことを踏襲していけば、街の商店や飲食店も活気づき、ここに新たな商売の可能性を感じて来る人も出てくるかもしれない。
- リニア新幹線がもたらす様々な人に対応するため、多様性のあるまちづくりをすることが必要。東京、名古屋、大阪の人たちの通過点になるので、きっちりと準備をすれば答えは出るのではないか。
- 女性に優しく女性が中心となること。男性の未婚率は 1990 年代では 20%くらいだったのが 2010 年には 35%。結婚したら嫁は家に入るといった感覚を変えていく。外国人に対しても同じ。今回のシンポジウムに女性のパネラーがいなかったことは残念。
- I ターン U ターンの他にも J ターンや Y ターン N ターン M ターンというのものもある。ターンの仕方も多種多様。これからは違う発想や感覚でやるとよいと思う。

河原コーディネーター

天龍村が高齢化率 60%超、大鹿村も 50%超、高森など北部は多少良いようだが、これで飯田下伊那はやっていけるのか。長く南信州のメディアの代表として見てきた関谷さんお願いします。

関谷邦彦さん

- 人口減少は日本全体が抱えている問題。山間地だけでなく中心市街地でも過疎化が進んでいる。商業界に於いては消費者の減少、新聞社にとっても全国の発行部数が 4,300 万部だが、10 年前は 5,300 万部であり、1 年に 100 万部ずつ減っている。100 万部とは信濃毎日新聞と新潟日報を合わせた数字と同じ。地方自治にあっても人口増に取り組んでいただきたい。
- 人口が減っていない地方都市の様子では、
三重県松阪市 U ターンをして3世代一緒に住む住宅を改造するのに補助金を出しており、効果があるようだ。
宮城県延岡市 旭化成があり、現在は安定しているのでよいが、下請け工場の合理化が進み労働者が離れることになると打撃を受けることになる。
福島県いわき市 人口激増だが、理由は東電の原発事故があり近隣からの移住。

河原コーディネーター

飯田市ではリニアを見据えた「いいだ未来デザイン 2028」が発表された。将来人口 91,000 人に行きついた根拠、経緯について、副市長さんに伺いたい。

佐藤副市長

- 飯田市の人口は 1 年間に約 600 人ずつ減っている。そのうち自然減は約 400 人、社会減は約 200 人。自然増減を変えることは難しいが、社会増減については努力の余地はある。
- この地域には大学がなく 18 歳を過ぎると地元を離れる人が多い。地元に残ってくれる人、大学を出て地元に戻ってくる人の割合は約 43%。これを 50%超にしたいというのが当面の飯田市の戦略の一つの柱。
- また、20~30 代の女性の帰ってくる割合が少ない。女性が活躍しやすい暮らしやすい地域づくりというのもポイントとなる。合計特殊出生率が飯田市は 1.76 で、これは全国的に高い数字。国全体としては 2.07 まで持っていきたいのだが、国全体は約 1.3 とかけ離れているが、飯田市では可能性があると思っている。出生率を上げる政策、ご夫婦が希望する子供の数を実現できるようなサポートもしていきたい。
- 飯田市の推計人口は 2045 年に 91,000 人という数字を出しているが、これは国の推計よりも 16,000 人上乗せになっている。外に出た人に戻ってもらう、出生率を高める、子育て世代の移住定住のサポート、という各政策をすすめ、さらにリニアの効果も加えて、この数字を出した。リニアの効果は、佐久平と同じようにこの地域でも発生するかと言えばそうではないかもしれないので、我々の努力が必要となってくる。

- いいだ未来デザインでは「田舎に還ろう戦略」を掲げ各地区で人口を取り戻していこうと考えている。例えば上村は人口500人弱だが、上村地区で子育て世代、若者世代、60代以上世代をそれぞれ1年に1世帯ずつプラスできれば下げ止まりができるのではという試算。このくらいのハードルなら頑張れるという数字。このように、市全体と各地区で問題に取り組んでいこうと考えている。

河原コーディネーター

人口減少への対策として移民や出稼ぎ外国人の受入はリスクが大きいと感じるかもしれない。国は技能実習生を受入しており、毎年20万人これから50年で1,000万人の移民受入を表明しているが、中国はじめアジア各国は急速な高齢化人口減少期に入り、日本に入ってくる保証はない。しかし多文化共生社会の実現に取り組んでいる我々協会は、外国人の受け皿づくりの準備は進めていかなくてはと思っている。

横田国際交流推進協会会長

- 人口が減るということは生産人口が足りないということである。女性にもどんどん現場に出て来て働いてほしいし、女性の地位の向上も重要。だが子供を育てながら仕事をするということは、家庭で子育てのサポートがないと難しい。
- 人口は日本全国で減っていく。飯田は自然が豊かで人情が厚く、住みやすいと住んでいる人は思っているが、日本全体に目を向けると同じような条件の地域はたくさんある。これは競争。飯田だけを考えるとリニアも来るしいいと思うかもしれないが、もっと悲観的に考え、やる時には楽観的にやるべきでは。
- 外国人アンケートによると、日本語をもっと学びたいという意見が一番多かった。家族の健康、就労、子どもの就学等困っていることも色々ある。せっかく定住するには良い場所なので次にあげる事柄に取り組んでいきたい。

第1に言葉の問題。家族間のコミュニケーションもうまくできない例もある。例えば飯田に來れば日本語が勉強できる、日本の子どもたちもここに来れば外国語が学べていずれビジネスができるかもしれないという環境。

第2に仕事の確保。まずは働き、その後起業してもよい。

第3は子どもの教育。

第4はともだち作りのサポート。

第5は家族の健康と介護。

最後は今住んでいる人の評判。口コミの利用。

河原コーディネーター

飯田市の基本戦略の中で外部からの労働力の受入については若干具体策に乏しいという印象を受ける。外国人労働者の受入態勢の強化が必要ではないでしょうか。

佐藤副市長

確かに外国人労働者の受入の政策は飯田市として打ち出してはいないが、先ほど横田会長から出していただいた課題に取り組むべきと思っている。

河原コーディネーター

当地域は里山中山間地が多く、穏やかな気候や四季に恵まれ、果物の出荷量は群を抜いている。

農業は地元が潤っていくための自律的でリスクが少なく期待できる産業。果樹園を手掛けている寺沢さん、土地利用の対策もあわせて感じていることがあればお願いします。

寺沢秀文さん

- この地域にとって誇れるものは美しい景観と農村風景であって、これだけはリニアが来てても守っていくという覚悟が必要。農業は後継者不足や荒廃地問題等厳しい状況にある。私は松川町増野でりんご作りも行っている。この地域の果樹の種類の豊富さとおいしさは全国的に誇れるものである。これをどのように活かしていくかということが問われる。
- 荒廃農地をどのように維持していくか。農業は農家、林業は林業家に任せればよいというものではない。農地にしても森林にしても地域にとって地球にとっても大切な資産なので、国民全体で守っていくと意識を持つことが大切。そのためには都会からの農業体験、農業交流で交流人口を増やし、その中で定住人口を増やしたい。その事業を国や企業をあげて支援をするといった仕組みを作っていくことがこの地域の大切なものを守っていくために有意義なことだと思う。

河原コーディネーター

この地域の経済産業振興に向けて知の拠点づくりや航空産業等に、官民一体となって取り組んでいることは評価と注目を集めているところ。産業の分野に中心的に関わっている原さん、企業の労働環境改善含めてお話しいただきたい。

原 勉さん

- 一つは企業間の保育事業を飯田市も含めて支援すべきと考える。働く女性は子どもを預けることに苦勞をしているので、いくつかの企業が合同で保育園を実施するとか、地域の人も関わると良

い。女性の心をつかむまちづくりを地道に行っていければと思う。慌ててもうまくいかないのが緩やかに取り組むべき問題であり、徐々に成果が出れば、人口の自然増にもつながるのでは。

- 男性の未婚晩婚も問題。職場結婚も減ってきているので、皆さんで考えるといい。多様性を認めつつ、若者・よそ者・女性の活用が大きなポイントになり、同時に子どもを中心とした親の繋がり、保育者とのつながり、個性豊かな各会社の社員のつながり、地域の人々のつながり、多くのつながりの中で子どもが生まれ、それぞれの花を咲かせていくとよい。
- リニアの駅は長野県の入口という発想ではなく、「飯田市」という新しい魅力ある都市として、東京、名古屋、大阪というそれぞれの文化を持つ大都市とつながる駅となるように願う。皆さんで知恵と力を出し合い、慌てず、ターゲットを見誤ることなく新しいまちづくりに取り組んでいかれるといいと思う。

河原コーディネーター

飯田は中央道の効果は意外に薄かった印象があり、発展を妨げてきたものは何だったか。過去を反面教師にしながら人を集めることができる場所など、飯田らしさについて、関谷さんにお話しいただきたい。

関谷邦彦さん

- 出雲市は山陰地方で人口が増えているが、島根大学医学部と薬科大学がある。さらに福祉教育が必要ということで医療・介護専門の大学の誘致を行い、それによって1,000人の人口増を見込んでいる。また工場誘致に官民挙げて取り組んでいる。
- 飯田市では医療介護に610億円、農業生産が250億、観光が100億といかに医療が多いかが分かる。医療従事者が11.65%になっており、飯田市の人口問題についても福祉医療は欠かせないものとなっている。リニアができれば、医療関係のより一層の充実をはかり、年を取ったら飯田で過ごそうという体制を作ってもいいのではないか。
- 長野県の大学の分布図を見ると、飯田市には飯田女子短大たった1校。リニアの後には教育を受けるには素晴らしい環境である飯田に大学を誘致するべき。

河原コーディネーター

リニアは最高の輸送手段であるがもろ刃の剣であり、地の拠点や大学の誘致など、飯田らしさに特化した一層の求心力を高める努力が必要である。次に若い女性が住みやすい社会作り。女性の雇用や子育て支援、子どもの医療や教育面が充実すれば、その結果出生率が増え、IUターンにもつながり、女性の社会参画も増える。また過疎化対策として中山間地の有効利用は、優れた農産物の生産と女性や高齢者の雇用にもつながる。

また外国人労働者のスカウトは移民の観点から慎重を期するにしても、私ども多文化共生事業は今ここに住む外国籍住民や関係者のケアをして定住していける社会を目指すものなので、粛々と取り組んでいきたい。

今後このシンポジウムはシリーズ化して何回か続きますが、経済、医療、就労、福祉、教育等、専門領域ごとに多文化共生を考えていきたいと思っている。

質問がありますでしょうか？

原レティシヤさん

私たち外国人はどういうふうに関わりたいか考えている。今日話し合われたような問題について役に立ちたいと思っているので、私たち外国人のことも、もっと考えてほしい。

佐藤副市長

約2,000人の外国人の皆さんがいてくださるからこそ、飯田市は10万都市を維持できている。アンケートによると飯田市にずっと住みたいと思って下さっている方がほとんどだと認識している。我々と一緒に新しい飯田市、これからの飯田市を作っていく仲間だと思っていますので、ぜひご協力をお願いいたします。

河原コーディネーター

このあと飯田市がこうあってほしいという夢と、飯田らしさとは何かを語っていただく予定でしたが、時間の関係で割愛させていただく。人口減少は日本中の問題、この地域に住む我々市民がいかに心豊かで安心な社会を営んでいけるかという観点が大切だと感じた。

パネリストの皆さん、会場の皆さん多大なご協力をいただきありがとうございました。

三石事務局長

今日のシンポジウムを持ち帰っていただいて、それぞれのまちづくり委員会などに提言していただきぜひ一人ひとりが考えていただきたいと思います。本日は誠にありがとうございました。